

加藤直裕様

<アナウンス部門講評>

皆様、お疲れ様でした。アナウンスで一番大切なことは口を大きく開けて、お腹で支えながらはつきりと声を出すことです。

もう一つ、せっかく自分で取材して、原稿を書いて、繰り返し読む練習を重ねてきた作品なので、仲間に聴いてもらって、スピードは早くなかったか、イントネーションは正しかったか、ポーズの取り方はよかったか…などなど指摘してもらいましょう。

もう一つ大事なことは、自分が今日に受けて努力を積み重ねてきた最高傑作を披露したときに、その発表を1回聴いただけで、内容を理解してもらえるかどうかです。正しい発声、イントネーション、アクセントといったことは、自分の課題なので、どうしてもできているかどうかの対象が自分にいきがちですが、人に伝えるということは、どういうことか？それもしっかり見つめてほしいと思います。

<朗読部門講評>

皆様、お疲れ様でした。全体的に読む技術は皆さんほとんど差がないように思いました。ただ小説の内容を頭に思い浮かべながら、理解して朗読している生徒と、読むことに集中して、絵が思い浮かべていない人では、伝わり方に大きな違いが出ていたように思います。

朗読はアナウンス以上に難しい面があると感じていますが、やはり読み手が内容をイメージして紹介しないと伝わるものも伝わらないので、そんなことも意識して見てください。こちら、仲間に聞いてもらって、意見してもらうことも上達の道かと思います。

秋元紀子様

<秋元様よりご連絡>

4月14日(土)14時より山手ゲート座にて「秋元紀子ひとり語り」が行われます。興味のある人はぜひ見に来てください。

<アナウンス・朗読講評>

マイクがあっても、やはりお腹からの声が必要です。声を支える筋肉をしっかりと使いましょう。口先だけで活字を追うのでは、伝わりにくいです。胸式呼吸で建前、腹式呼吸で本音となります。深い呼吸、お腹からの本音で堂々と伝えてください。深く長い呼吸ができると、語尾が消えず説得力を持ちます。

最初の自分の番号からしっかり言いましょう。不用意に軽く、勢いだけで出ないでください。落ち着いて言ってみてください。

私たちが何かを人に伝えようとするとき、必ず言いたいことがあり、それが頭の中に映像化されていませんか。頭の中に何もなくて真っ白なまま話し出すことはまずないと思います。昨日のTVのこと、友達のこと、学校のこと、その映像があって喋り出します。ですから、活字をどう読むかどう表現するかではないのです。言い方ではないのです。まずは頭にその物語の情景、人間を具体的に映像化してください。それを自分が体験したかのように普通に話してみてください。それができていれば、どーするこーするはなく自然に語れて、人にも伝わります。ぜひ試してみてくださいね。

あと、セリフばかりですと内容が伝わりづらいです。本人は面白いかもしれませんが、朗読としては成立しないかも。地の文がきちんと読めていると入りやすいです。

倉林由男様

<AP・VM 講評>

視聴者の興味は冷めやすいもの、出だしにインパクトのある展開を持ってきて、興味を引く、そして人々の心の中に入っていく、そういう努力に目を開いて欲しいです。人に関心をつかんでしまえば、自分たちの取材したものをたたみ込むように心に打ち込んでいけます。そしてその先には「感動」を与えることもできるかもしれません。放送の最大の喜びです。

そのために、最初の 30 秒で、人々の心に入っていけ得るような方法を工夫して考えましょう。「音」を効果的に使うのが良いでしょう。そして人の「喜怒哀楽」、怒ったり泣いたりしては人間の姿、あるいは「これは何だろう？」という驚きと謎解き、など。いくつもの方法がありますが、テンポよく作っていけば道は拓けます。

人の心に訴えかける⇒人の心に入っていく⇒視聴者を現場に連れていく⇒そして「感動させる」この流れを掴むよう、最大限の努力を！

特に「音の世界」は面白いです。人々の心に入って行きやすいです。

滝沢伸幸様

<AP・VM 講評>

AP、VM 部門ともに、レベルが高く大変楽しませていただきました。テーマ選び、構成、ナレーション等も一定以上のレベルで感心しました。

今後の課題として、あえて1つあげるとするならば、綺麗にまとめすぎないようにし、視聴者に過度な刺激を与えるような工夫をして見てはいかがでしょうか。視聴者の集中力は限られています。平坦な物語にせずに、「山」を作るような構成を考えて見てください。今後の皆さんの活躍を楽しみにしています。